take
free

幸区・まち・発見

まちのおと

machi-note | 2022 春

CONTENTS

ココドコ？「あっ！」
まちかどインタビュー
このまちの歴史「稱名寺」
練習馬場で馬たちを見まもるパン屋さん
「清流亭いしあたま」さん
まちのおと事業紹介
編集後記
ココドコ？「小向マーケット」

ココドコ？

「あっ！危ない」「あっ！気をつけなきゃ」
普通の道路表示とは一味違う表現で今日もみんなの安全を守っています。足元に気をつけて、前を向いて素敵な道を安心してあるけますように。

photo ／中村 圭子　記事／木戸 真理子

新川崎＆鹿島田
まちかどインタビュー

しあわせだなぁと感じるとき

大野屋さん

Chisato さん

もり まさのさん

大野 誠さん

山﨑 悠介さん

徳植 由美子さん

赤松 宏美さん

立花 和宏さん

岡田 恵利子さん

学ぶ　つながる

平間山稱名寺は、室町時代の応永元年（1394）に亡くなった圓山和尚によって創建されたと伝えられる。このお寺が有名なのは江戸時代、元禄の世に起きた赤穂浪士四十七人による討ち入り事件。大石内蔵助が当時下平間村の年寄だった軽部五兵衛を頼ってその屋敷地（旧：下平間団地付近）に10日ほど滞在したと伝えられていること。稱名寺には、その時の遺品と伝えられる品々が残されていることから、今では赤穂浪士ゆかりの寺として知られています。
五兵衛は農業を営むかたわら、赤穂浅野家の江戸屋敷へ出入りして牛馬の餌を納めたり、屋敷の下掃除（今のトイレ掃除）をして下肥（田畑の肥料）の分配を請負っていた関係で、浅野家の家臣とも知り合いになっており、とりわけ堀部弥兵衛や大高源吾らとは親しかったようです。
稱名寺は昭和20年の川崎大空襲で全てが焼失しましたが、赤穂浪士の遺品だけは近くの土蔵に預けてあったので難を逃れ今に伝わり、赤穂浪士が討入りを果たした 12月14日に、稱名寺では遺品の一般公開が行われています。（今回はコロナで一部公開でした。）

History #3
～このまちの歴史　稱名寺
しょうみょうじ

日吉郷土史会会長　市川勝一さん。
教科書にはない地域の歴史を教えてくれる貴重な語り部。
地域の方とご一緒したまちあるきでは「なぜこの地域は赤穂浪士と所縁があるのか」を教えていただきました。古くは貝塚の話から戦後の移り変わりまで、川崎市は大きく変化してきたまちだということを改めて知ることができました。

photo／岡田　恵利子、中村 圭子　記事／伊藤 公一

この場は一周1200m

練習馬場で馬たちを見まもるパン屋さん

多摩川の河川敷（多摩川大橋の近く）には、競馬場で活躍するお馬の厩舎があります。まだ暗いうちから、近くの練習馬場では蹄で土をけり駈ける軽快な音が響きます。その一角でパンを売る町のパン屋さん「スモモハウス」の井上政明さんを取材させていただきました。

井上さんは 20 代から馬に関わるお仕事に就かれ、ここ小向厩舎でも厩務員としてお勤めされていたそうです。

お話を伺っている最中も次々にお馬が通りの向こうから厩務員さんに曳かれ、横断歩道を渡って馬場に入ってきました。

馬にみとれていたら、井上さんが「馬に乗る人が着けているヘルメットの色で役割が解るんだよ」と教えてくださいました。赤は「調教専門」、オレンジは「見習い」、黒は「ジョッキー」。

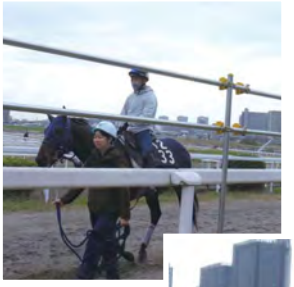
今はパン屋さんの定休日に早朝からここでパンを販売。「気軽においしいパンを食べて欲しい」と言う奥様の提案で焼くパンは、素材ひとつひとつにこだわり丁寧に作ってます。確かに毎日食べても飽きのこない優しいお味でした。価格も良心的!!

最後に井上さんとお馬の写真をぜひ記事に載せたいとお願いしたところ、ちょうど元同僚の厩務員さんが馬場に入ってきたので撮影することができました。

帰り際に馬好きなレポーターから「馬のにおいって一頭一頭ちがいますよね」と少し不思議な質問をしたら、井上さんが優しく微笑んでくれて、本当に馬を愛おしく思いお仕事されていたんだと感激しました。

少し早起きしたら、ぜひ多摩川をお散歩してみてください。

手前が井上さん



まちのパン屋さん「スモモハウス」

住所：幸区古市場1-16-26
営業時間：10:00 ～ 17:00
定休日：日曜・祝日

撮影／中村 純子　レポート／竹内 尚美

close up

さいわい寄席主宰・アマチュア落語家

清流亭 いしあたまさん

喋りのプロだった。飄々とした軽い語り口で「くすぐり」をちりばめながら、聴き手を和ませてくれる。「お客さんが 1500 人の時は、1500 分の 1 じゃなくて 1 人 ×1500 人のお客さん。それが僕の接し方」。「座布団に座って 5 秒、10 秒以内に笑いを取れなかったらダメだね」という言葉に、落語家の魂を垣間見た。

30 代、父親が他界した悲しみを埋めたくて、読売新聞の時事風刺欄「USO 放送」に投稿をスタート。ペンネーム「いしあたま」は 1 週間考えた末に決めた。「ひらがなにすると、やわらかそうに見えるでしょ？」という一言に、言葉へのこだわりが見える。

「(投稿すると) なぜか載っちゃうんだよね」と、彗星の如くあらわれて、瞬く間に各新聞社の時事風刺欄の常連となる。

40 歳で寄席に魅せられてから、年間 50 回以上通いつめ、客席 2 列目に陣取って真打のしぐさや語り口を研究しながら、本やカセットテープで噺を覚えた。

落語授業のはじまりは、小学校で実施したそろばん授業の後、校長先生に披露した洒落がきっかけだった。「最終日 3 日目は、そろばんではなく落語の授業をやってください」。急な依頼だったが、一切手を抜かなかった。落語の歴史や知識を資料にまとめ、一席を設けた初めての落語授業は大好評。その後も市内の小中学生に落語授業を続け、各種団体から「落語よもやま話」などの講演会の依頼が殺到し、落語家への華麗なる転身が始まった。

「アマチュアの夢はね、真打と同じ座布団に座ることなんだ」。その夢を叶えるために、平成 6 年にアマ・プロ共演「さいわい寄席」を旗揚げし、56 回を数える。今では、アマチュア・プロ共演寄席で入場者数日本一を誇るまでに発展した。15 名の弟子を「まず、褒める。そして、ダメ出し。そうしないと育たないから」と温かな眼差しで指導を続けている。

プロフィール

川崎市幸区出身。本業の珠算教室を幸区古川町に開いて50年以上。今も週に2日子どもたちにそろばんを教える。珠算最高段位十段。表彰・受賞歴多数、平成28年川崎市文化賞を受賞。落語家としては「芝浜」「子別れ」「井戸の茶碗」古典落語の人情話が得意。川崎市の歴史・二ヶ領用水や夢見ヶ崎を題材にした落語の著書を3冊出版している。

photo ／木戸 真理子　記事／赤松 宏美

さいわいソーシャルデザインセンター まちのおと

話し合う　つながる

川崎市幸区と株式会社イータウンが協定を締結して2021年1月から新川崎タウンカフェ内に開所しています。

知る

P2 ココドコ？ ～あっ！
P8 ココドコ？～小向マーケット

まちのおとでは地域の活動情報を web や SNS で発信したり、情報ラックコーナーにチラシ、パンフレット等を設置します。また、まちを知り感じるボランティアのレポート活動を行っています。今号でも、まちあるきを通じてボランティアレポーターが不思議スポットを発見しました。

学ぶ

P4 このまちの歴史 ～稱名寺
P5 練習馬場で馬たちを見まもるパン屋さん

地域で活動する方へのヒアリングなどを通して、まちを知り学ぶ機会を設けます。また、どなたでも参加可能なまちあるきでは、新しい街の魅力を発見したり、歴史や文化などに触れることで学びが深まり、地域に愛着がわくと好評でした。

相談する

P3 まちかどインタビュー

「やりたい」「どうするの」といった、地域活動や団体の立ち上げや、活動を継続するために必要な情報やノウハウを、相談アドバイス事業を通じて、サポートしています。これまでに団体設立や活動場所の提案、活動資金の確保、人材発掘、他団体や行政、企業等との連携協働など、様々な実績が形になってきています。

つながる

P4 このまちの歴史 ～稱名寺
P5 練習馬場で馬たちを見まもるパン屋さん
P6 クローズアップ 町の落語家紹介
P7 編集後記 すたっふつぶやき

市民参加型の地域交流会など気楽に集まれる場を活用して、まちづくりや地域活動に携わる方のネットワークづくりを行います。地域で活動する方のインタビューを行いレポートとして公開することで、活動の意義や想いを知ってもらい、さらにはつながりづくりのきっかけとなり多くのご縁づくりができました。

話し合う

P7 まちのおと紹介 / 編集後記

地域の活動団体や個人の「困った」や「やってみたい」をヒアリングしたり、行政を交えてソーシャルデザインセンター運営の方策等について意見交換を行い、事業に生かせるように検討します。この情報誌は市民ボランティアと７回の編集会議に加え、それぞれが自主的に取材や撮影、執筆に関わりました。

まちのおと情報誌のおもい

まちを感じ・知り・伝える

まちのおと情報誌は、地域の魅力を感じ･伝えるために、まちあるきや交流会、ヒアリング、取材などの活動を通して紹介しています。今号も７名の企画編集ボランティアが参加して想いをカタチにしました。

※まちのおとポータルサイトではより多くの情報を満載して紹介しています。

地域情報サイト
まちのおとポータル

編集後記 すたっふつぶやき

久しぶりのまちのおとの編集。とてもワクワクしながら取り組みました。仲間と一緒に街歩きしたり、写真を撮ったり。コロナが明けてまたそんなイベントがたくさんできますように願っています。（マリカメラ）

取材はパン屋さんについて。でもお馬の姿や蹄が土を蹴る音が気になり実は何を聞くか忘れたくらい楽しかった。ひとつのことを皆んなで完成させる。そこにいるだけでハッピー♡ Thank you まちのおと。（naoT）

お馬さんの走る姿だけでなくお馬さんのあれこれを知ることが出来て楽しかったです。まちのおとに関われてよかったです。コロナがあけたら新たなる出会いを見つけにこの「まちのおと」を持ってでかけようと思います。ありがとうございました。（じゅんじゅん）

場の空気を、言葉のチカラでゆるりと和ませる名人。いしあたまさんの取材文からそれが伝わったらいいな。（赤）

Mean a summer. Turn no see kit G nit nut a ton oh more in math. Thay he go I dock could a sign.You'll seek net ! (morrybay@days)

赤穂浪士ゆかりの稱名寺を訪問した日は、風雨が強くてまるで滝打ち修行のよう、だからますます郷土愛に燃えてきました！（ハムちゃん）

今回は会議のみの出席でしたが、編集者の皆さんの地域への愛情や想いを感じることができました。（サッキー）

ココドコ？

知る

photo／岩川 舞　記事／中村 圭子

“ザ・昭和”の趣漂うレトロな小向マーケット
懐かしさと新しさが融合する佇まい
店頭にならぶ油揚げやがんもどき、水槽には豆腐が泳ぐ
器を持って買いに行った子供時代がふとよみがえる
これからも残していきたい風景

まちのおと情報誌
発行日：2022年3月25日発行：株式会社イータウン　発行責任者　齋藤　保
TEL/FAX: 044-555-0233 新川崎タウンカフェ内 https://machinote.net/sdc/

まちのおと　川崎市幸区鹿島田1-1-5 パークタワー新川崎102　TEL:044-555-0233
本誌はさいわいソーシャルデザインセンター（まちのおと）の事業として発行しています